

平成22年度江南市地域まちづくり補助事業公開報告会 開催結果

事業の成果報告をとおして、市民によるまちづくりを広く多くの方に知っていただき、事業の振り返りをとおして、**市民協働と市民活動によるまちづくり**について会場参加者全員で考えることを目的に、地域まちづくり補助事業公開報告会を開催しました。

平成22年度に補助金を受けた**4事業**の成果報告の後、会場参加者**36名**から各団体への質問・励ましのメッセージを記載していただきました。寄せられた多くの質問に対してはその後の意見交換において各担当者から回答していただき、事業を通じたノウハウの共有、団体間の情報交換、エール交換の場となりました。予想以上に多くのメッセージ・エールが寄せられ、江南市の市民活動において、**ともに励ましあい育ちあう土壌が豊か**であることが確認できました。



《日時》

平成23年**3月21日**(祝)

午後1時30分～3時30分

《場所》

市民・協働ステーション

(地域情報センター2階)

①治水の遺構「忠平猿尾」周辺の自然保護と散策路整備事業

代表団体：鹿子島GGクラブ

(特)江南フラワーズと連携して、木曾川左岸に残る江戸時代の治水の遺構「忠平猿尾」の景観アップと散策路の整備を進めました。昔は、毎年洪水の被害にあっていた鹿子島地区。自分たちの生活を守ろうと、猿尾の築堤を始めた忠平親子の民話を聞いた時、昔の人々が様々な苦勞や工夫を重ねた結果今の暮らしがあることに気づき、感謝するようになりました。この民話を伝え続け、その猿尾を残していきたいと思ったのが活動を始めたきっかけです。

平成22年度は、雑木林と化していた下流部の草刈りと、ネムノキ樹林の形成・保護を行いました。平均年齢74歳のシニアパワーで草を刈った結果、人が通れるようになり、それに伴い国土交通省が2箇所階段を取り付けてくださったので、遊歩道と周遊できるようになりました。平成23年度には、天端に砂利を敷きさらに歩きやすく整備しますが、重い沢山の砂利をシニアだけで運びきれのか…悩ましいところです。現在、地元小学生、中学生など若者パワーを巻き込めないかと模索しています。いずれにしても、今後も定期的に草刈り作業が必要なため、郷土愛を育みながら継続的に取り組んでいこうと思っています。また、つるが巻き付いてしまっていたネムノキは、形成・保護した結果、繊細で輝くような美しい花が沢山咲きました。開花時期は、6月下旬から7月上旬です。散策しながらネムノキや自然を楽しんでいただけますので、皆さんぜひ遊びに来てください。



②緊急時 安心“水の隣組”マップ作り

代表団体：江南市水道工事店協同組合

まちづくり江南市民会議と連携して、市内に点在する井戸の調査をし、災害時に風呂や掃除、洗濯、トイレなど飲み水以外の生活用水として使用できる「防災井戸」の診断を行いました。緊急時に必要なのは住民相互の協力体制や地域のつながりであると考え、自分たちが水のプロであるということ、また、水は“命の源”であるということから、「水」を核とした昔ながらの隣組を構築する足掛かりを作ろうと活動を始めました。

まず、全区・町内会で回覧板を通じて本事業をPRしました。新聞に大きく取り上げられたこともあって、広く市民にこの主旨が伝わり、多くの協力を得ることができました。東野区所有井戸の診断では、区民参加で手汲みポンプ・電動ポンプでの水汲みを実施。災害時の水不足に大きな効果があると好評でした。

また、市民まつりや消費生活展で協力井戸の位置を発表したところ、その多さに関心が集まりました。同時に、飲み水以外の生活水の重要性が説明でき、災害時のための水の確保の必要性を伝えることができました。

新聞報道の結果からか、県下の複数の水道工事店組合から本事業についての問合せがありました。東日本大震災が発生し防災意識が高まる時。江南市での活動が県下に広がり、多くの人に安心が生まれる事を期待しています。

平成23年度は、法人が所有する井戸の調査と井戸の位置看板を設置し、引き続き市民に周知していきます。



③布袋駅舎保存

代表団体：布袋駅舎保存会

旧布袋駅は大正元年に建てられ、100年もの間地域に親しまれてきました。高架化に伴い解体計画があがった時に、地域でアンケートを行ったところ、7割以上が何らかの方法で保存を望んでいることがわかりました。地域の思い出が詰まった駅舎は布袋の財産ではないか。何とか残して、地域住民の息吹が通うまちづくりに活かさないか。その思いで有志で設立したのが「布袋駅舎保存会」です。

駅舎は10月に取り壊されましたが、その前に記録保存（図面や写真）と部分保存（車寄せや飾り天井など）を行い、市民まつり等の人が集まる場所で展示・公開しました。また、ほていコミュニティ協議会との連携により事業を行いましたので、地域に密着したコミュニティ紙（ほていかわら版）に活動を掲載。みんなで創る楽しいまちづくりへの気運高揚につなげることができました。

これらの活動は、多くのメディア（新聞・雑誌・テレビ）で取り上げられ、当事業を全国的に発信することができました。同時に布袋で行われた他事業も発信されたので、相乗効果により、遠方の方にも“元気あふれるまち布袋”を伝えることができました。おかげで県外からも賛助の声があり、多方面からの協力が生まれました。

来年度も引き続き活動を続け、旧駅舎を模した交流施設建設の実現に向けて、一步一步進んでいきたいと思えます。車寄せはジオラマと共に布袋ふれあい会館で展示していますので、皆さんぜひ見に来てください。



④共に考える地域の小児医療 ～広げよう子どもの笑顔～

代表団体：(特)子どもと文化の森

これまで江南厚生病院と関わる中で、中核病院に軽症患者が集中し、医師不足や病院本来の役割（救急患者や入院患者への対応）が果たせない現状がある事を知りました。そしてその状況は、患者が正しい知識を持って適切な医療機関にかかれれば解消し、効率的に安全な医療を受けられる事を知りました（地域医療）。また、子育て支援の活動をする上で、医療に関する情報があれば生活に活せるのではないかと感じることもあり、住民が主体となって地域の小児医療を守っていけるような意識を生み出す事業を行いたいと思い実施しました。

事業の内容は、地域とのつながりや心からの笑顔を届けるための病院内での芸術公演と、厚生病院の専門医を講師とする講演会の開催です。芸術公演では、本格的なマジックを見せていただきました。地域と同じ目線でつながりあうきっかけになったし、地域に小児医療のことを広く知ってもらう機会の一つとなり、小児医療の支援につながったと思います。看護師に「楽しかった」と話す患者さんが大勢みえ、毎日の辛い治療の中に、一時ですが笑顔と元気を届けられたと思います。講演会では、専門医から直接話が聞けるとあって大変好評でした。質疑応答では沢山の意見が出て、熱心な保護者の姿に驚きました。

このような取り組みは、継続的に地域へ啓発してこそ長期的にみて意味を成してくるので、今後は、事業継続のための支援者を増やす仕組み作りを目指していきたいと思えます。



※質疑応答では、メッセージカードに寄せられた質問に対して、担当者から回答していただきました。 ～その他の主なメッセージ・エール～

- ①「忠平」**広報・周知の方法を教えてください。**⇒新聞社へのPRが効果的でした。また、団体HPに活動を掲載したところそこから波及してラジオで紹介されました。
- ②「井戸」**今後どのようにマップを公表し、活用していきますか。**⇒データにて、区・町内会長や関係の方々にお渡しする予定です。
- ③「布袋」**協働して良かった点を教えてください。**⇒地域への浸透効果が高いコミュニティ紙で地域に強く発信できました。また、NPO・地域それぞれの強みや専門性が活かされ補い合ったことで、事業実現のための大きな力が生まれました。

参加する方法があれば教えてください。⇒ぜひ賛助会員に！また、団体Tシャツを購入し着ていただければあなたも今日から駅舎仲間です。

- ④「医療」**今後継続にあたって、地域の方や学生ボランティア等の受け入れを検討されてはありますか。**⇒病院という特殊な環境の中なので、慎重に対応する必要もありますが、継続のための一つの方法として参考にさせていただこうと思えます。関わる人の幅の広がりも検討していきたいと思えます。

